

平成30年度アドバイザー派遣事業実施レポート

- 実施研究団体 西部地区生活科・総合的な学習の時間研究会
- 実施期日 平成30年11月26日

- アドバイザー所属及び氏名
愛知教育大学副学長 野田敦敬

○ 実施内容

研究テーマ「夢をもち 主体的に学ぶ力を育む生活科・総合的な学習の時間の創造」
～豊かな心を持ち、地域への愛着を深める子どもの育成～

研究仮説 「体験活動と豊かな学び合いを繰り返し積み重ねていくことで、進んでかかわり合い、学び続けることができれば、豊かな心を持ち、地域への愛着が深まる子どもに育つであろう」

研究の重点

- ①地域における体験活動を単元構想に位置づけ、繰り返し直に学ぶことを通して、地域のよさや地域の思いに触れ、地域への愛着を深める。
- ②児童が考えたい取り組みたい必要感のある課題を設定し、児童の主体性に基づく課題解決力を高める。
- ③失敗経験や、対象との考え方のずれに気付くことで、児童がやりたいことを目的意識や相手意識と結びつけて解決していく必要性を実感させる。
- ④児童同士の深い学び合いにつながる関係づくりや対話力を身に付ける。
- ⑤自己の課題と活動を関連させて振り返らせることで、学習によって自らの成長を感じさせる。

- 授業公開及び授業研究会
第3学年 総合 「おいしいまち会見～広めよう会見の柿～」

○ 指導を受けたこと

会見小学校は、今年度で「生活科・総合的な学習の時間」の研究に取り組んで三年目となる。「愛着」「誇り」「地域貢献」をキーワードに、学校単元として地域素材が設定され、地域のよさを生かした単元構想がなされるようになった。また、児童が類別や比較、関連づけ、焦点化ができるようになるために、工夫された板書（構造的板書）にも学校として取り組むことができた。今後は、振り返りを通して、自分と対話していく時間や児童同士の語り合いを大切にしてほしい。児童の語り合いは、学級経営が基盤である。友だちの話を「聞く」姿勢を育てることが重要である。そして、内容や方法を深く話し合うためには、グループ発表を充実させる必要性が大切である。

*別紙資料：『探究』が深まる条件とは